



文化十二
亥年春興
藤垣主人筆意



やう西よりお加来八垣子路まきりり 相良 玉珂

青柳子心よりあかく流るる 豊女

黄もや空人あつし知やうり 不可得

江のあつさふそやう子日のある 一愠

梅茶菜とにうき春の事 舟仙

京へ出て小笠買ふそ春の風 武石戸 尤右

梅子春ハ色るやう春二月外 然谷 洛律

木芽ふくや山も流るる茶中 高更 柳子

富うちれ余所子志をくそ春 板戸 鳥光

待花の十日やいそか一年 素白

窓蓋も扇もあけける風 常陸 楽水

湖を雉の越々朝南風 一止

いつそこの世も西白一夜の蝶 閑月

梅子出んしや春才ハ玄城も 下野坊本 閑月

門子待て流をる女や春月 かたら

月半猶春もよけやとあつる かほ

防風や雉の振をるあつ砂 云ら山

此花を皆掃こむら草の穴 大塚 玄白三

曉ぬる声ふくろく春の旭 九霍

池子向門やあくまき柳茹飛 仙臺 一得

睡赤也のそりあつく神如馬 龜

望より下子足そめ月さ内さつ 古道

牛の子乃角かゆけり春の風 今津 石定

あつれもあつるをあつる 越舟橋 遠

春高ふ形かみ子粒をり 善光寺 可厚

中へ春夢や二日子三つふく 阿久津 兔水

山吹のちや流るの白乃魚 二本松 春市

子雀の心より子春さつ花の鈴 白川 藤朝

春の野の三味線を食む 下野 其量

菽くくや春子はん出す小坂 上野 壺半





椿年

上野
壺半

むく方へ吹きまをりり春の風 下 佐 多 瓊

糸山の暮新しき春の風 京 一 夜

木の矢も馬もあひて其猶道 辰 利 魚 辰

蕙越子雀見家やまゝに 辰 一 門

鶯の尾を吹せありや春乃風 鬼 石 芳 竹

道ニツとねを耕のふい日 常 陸 ね 九

柳ふとくや精も去来 江 戸 李 尺

待花の入口見せぬ柳 江 戸 一 曉

躍きて足ふまゝな雀の子 常 陸 卓 老

沙汰前月出でて垢垢 松 前 玉 光

人心はく動うは春の水 信 忍 笠 舟

流き藻よつくや 松 前 布 席

梅いさゝか 信 忍 美 奈

長閑さや等閑 常 陸 甘 宜

あきま 常 陸 蝶 舞

油断 い せ 志 月

春の鳩 仙 臺 醉 月

梅と云を 江 戸 空 人

巧つ 越 中 空 幸

炉 下 野 井 二

睡夜 越 後 魚 文

雲内 越 後 東 哉

春風 越 後 緑 園

念 越 後 と 魚 目

面白 三 磨 三 磨

若 佐 土 若 中

雲 佐 土 南 雅

雲 佐 土 宗 格

射 池 田 射 光

更もなきほど 香ふれ梅香、 宗倍

射汁や雉の姿を膳まきり 池田 呉光

赤友や梅り咲きて家をり 房丸 其父

牛の背の二まの丸一去の月、 簾左

松もや内儀の待一人も来、 阿良 素供

引むある竹も春の杉葉 赤沢 盧十

子一人あれは来まきり 加賀 迅雲

鶉の本よ鹿門や 白 棧 来石

くろく馬のこころ 楊の穴、 相生 年緒

先以小鳥轉る 春迎り郡 常陸 羅月

風巾正の工もや村の悪を亭 三有

やぐ育てくそ思ん蛙の子、 柿丸

手まきの臂ふ小室一白 江戸 有美

尾紙あさ 朝より時 芥 薙 三有 瓢箪

返す日の雨くまや梨子の毛、 直也

井の射も流きや只小雀ひく、 子彦

萍まきく花の心々分、 一歌

今年又ちる日子来より花の山、 狐山

鶯の羽の落葉も 檜 喜 房丸 杉長

長閑や縄よりむ道 三川 東明

初蝶や思の介の 武玉川 白度

淡雪や引つる 彼の泥まふき 江戸 右雄

菜の花や夜を日子決て 江戸 芦菴

木倉の化ても見せよ 江戸 菁々

八重雲の富士の雀芝蔴入目 江戸 荷乙

はほとを 伊勢 燕陵

雀は色も 下野 潮

あらし 出羽 素考

なす 相生 依の

さし 足利 志乃

花 足利 まらき

花 足利 まらき

花 足利 まらき



香煙堂筆

明卿

白梅や象目のやうな芽萱ふき
長寄
閑山

白梅や象日のくハ芽萱ふふ 長寄 閑山

事柳の懐を去る小舟りふ 松代 仙芝

骨子あふ海月も象や虫の花 岩門 のふ彦

中先や二玉の草鞋虫 秩父 病妻

す茶より茶ハ子等よりふ橋 越后 半沢

初春也日ハ夜子活をさうふ 上野 二川

鶯鳴もいさうりりゆる 佐友 鶯舟

梅咲ハ何うも彼れ人の来 越后 鞠堂

暮着蕨の芽ハ忘れて居る雉の唱 佐友 和柳

清障子忠めせ花子月夜の先 越后 龜足

自随落子飯くく花の小る 越后 吟糸

菜の花や夜も戸をぬ菴の前 米沢 東陵

正月も疎未子ありぬ布汁 米沢 豹章

山吹の子魚をくくぬ女髪長 米沢 柳五

施ふ子の常く夜よりさるの月 米沢 文溪

白くも望ハ流の夢て 松江 徐帝

寺子穿の昼子居るや水瓜萱 松江 三省

一羽の水も籠も川夜り 京 三省

噴すれハ芽柳もふく 京 松生

山里の夜もさる 江戸 三夜

とつ年や雀もつくと 江戸 五友

春風目黒へ出ても 奥羽 知昨

疱瘡神のさし 奥羽 萱橋

山多の麻木も 奥羽 巴堂

喬むさしの門と目の出 奥羽 春里

系花や草ハ二葉も 奥羽 雲除

以月や酒臭く 奥羽 乙雄

梅白く梅日の月も 奥羽 岳泉

鶯や田の鶯いさ 奥羽 谷を

藪入やふくさ包の浅 奥羽 東芽

紅梅の春はハたさうり小服さうり 萬里
 水壺小庵丁後す余空々々 五陵
 野ふせうら花の衣も悲しひら 平沙
 思ハ志や柳の中此はあし 梅寿
 空とけハげ小菊こころ蛙啼 政子
西上丸 翌五日をといハほうろくとこ月を橋に 浦人
 醋を乞子出るふもや惠方りな 鹿太
 桃咲や苗の行儀もろろく月 阿方
小田原 昨日を日くそのやううらち 桜 九和
信佐久 ふとく来高の塵や笹一葉 故園
 袴さすもやう子連上胡蝶さ 龜山
 笑ふ子のむくさう月や梅花 呼馬
 藪への山茶りてゆくや梅の神 炉扇
 芽青や雪さる瘳をりつ名木 扇丸
 山吹ももへくくや作ら 竹馬
 さくく物のかさうらあは 雲のる 御堂
 鶯の声おほけらさ小里ら 輕舟
 山吹や寺の小隅の比立凡さ 一蕙
 花の戸の名子いさうら 草薙虫 胡平
 うちとけと春やさうら 花もちあ 金令舎



金令番書帖

送確上人

